

平成28年度

スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

鳥取市立岩倉小学校

研究テーマ「互いの考えや思いの交流を通して、学ぶ楽しさを実感する授業づくり
～高め合う学年集団作りを基盤として～」

スーパーバイザー：梅光学院大学 子ども学部 子ども未来学科
山田洋平 先生

1 はじめに

本校児童はのびのびとした明るさがあり、言われたことに素直に取り組み努力しようとする子が多い。しかし状況に応じてよりよい判断をしたり、主体的に行動したり、人と望ましいコミュニケーションを取ったりすることが苦手な児童もみられ、生活ストレスを抱えたり自尊感情が低かったりする児童が多かった。また学習することの将来への意味づけが弱かったり、学ぶ意欲が低かったりする傾向にあることが課題だった。そしてそのような中、自分の能力を十分発揮できない児童や学校不適応を起こしている児童がいるといった現状があった。

そこで、このような課題解決のため本年度は、アセスやSEL-8S、ピアサポート等を中心としてカウンセリング的な学校づくりへの経験値が豊富である梅光学院大学 子ども学部 子ども未来学科 講師山田洋平先生に継続的なご指導をいただき、本校が抱える課題解決にアドバイスをいただきながら、学習意欲や学力向上を目指すのに欠かせない、学習集団作りをしてきた。

2 研究のねらい

学校生活や学習の基盤となる児童相互の関係性づくり（リレーション）と一貫したルールづくりに取り組むと共に、すべての教科でそのルールとリレーションを活かした学びづくりに取り組み、学習意欲と学力の向上に取り組む。

- ①児童の学校への適応力を高め、温かい人間関係づくり(リレーション)を基盤とした集団作りをする。
- ②岩倉スタンダード(ルール)を再確認・再構築し、児童の横糸をつなげる取り組みをすることで、児童が安心して生活できる環境を整える。
- ③ルールとリレーションの基盤の上に、学年集団での横糸をしっかりとかけて高め合う集団作りを目指す。その上で、集団思考が高まるような学びの集団づくりと学びの楽しさを実感できるような授業改善を図り、学習意欲と学力の向上へとつないでいく。

3 研究内容

(1) 児童の学校への適応力を高め、温かい人間関係づくり(リレーション)をする。横糸をかける。

① A S S E S S による児童の現状の検証

→本校の児童は向社会的スキル（友だちへの援助や友だちとの関係をつくるスキルを持っていると感じている程度）が低いことが分かった。スキルを付けて、生活満足度をあげていかなければいけないという課題を全職員で確認した。そこで、SEL-8Sでそのスキルを付けていくことを共通理解した。

② SEL-8S（社会性と情動の学習）の実施

→SEL-8Sを計画的に行い（月一回程度）、仲間とのつながりに必要なスキルを身につけさせ、日々意識させた。

③ 協同的な学び

→SEL-8Sで学んだスキルを活かして友だちと横糸をつなぎながら学力をつけていった。

→ホワイトボードを活用するとともに、グループ内での役割を周知させ、どの子ども学びの活動に参加させるようにした。

→「協同的な学び」強化週間を設けるなど、教員の取り組みの意識も高めた。

④ 学級単位ではなく、学年で横糸をつなぐ

→学年合同授業・学年道徳・交換授業の実施

→行事などの機会をとらえ、必ず学年でめあてを持ち、成長を振り返った。できたことや成長したことを認め合う場とし、児童の関係をつないでいく話し合いの場となった。

→座席の配置やグループのつくり方の工夫

→横糸チェックシートの活用



【学年授業で横糸をつなぐ】

横糸をかける授業づくりチェックシート		
学年()	教科()	名前()
子どもの見取り		JA
つながる意識	①話し合う際につながる言葉(一人の意見を聞いて...)などを使っているか。	
助けあ	②教師や友達の手を最後まで使っているか。	
互恵	③互恵の良さに対して反例(相手-うざげ-体を持って)などがあるか。	
声かけ合い	④グループ活動の場などに声をかけ合っているか。	
協同的な学び	⑤互恵や声かけを交話し、声かけを促しているか。	
相手意識を持った発言	⑥発言しているときに相手に向けてその発言の方向性を付けて聞いているか。	
教師の意識・工夫		
評価	①子どもの話し言葉や行動-そのつらさを認めて評価しているか。	
声かけ	②子どもとつながる言葉かけができていたか。	
相手意識	③相手とつながる言葉(反例可議など)-声かけ-評価も工夫しているか。	

※「評価」……各項目に対して、1点～3点の3段階で評価する。

【横糸チェックシート】

⑤横糸をつなげる活動

- おもいきり楽しみながら横糸をつなぐアートフェスティバル（全校造形遊びの日）の実施
- 「スポーツ委員会」による遊びイベントの開催
- 縦割りなかよし班活動の促進
 - ・「遊びブック」を活用した、なかよし班遊び



【アートフェスティバルで横糸をつなぐ】

(2) ルールを再確認・再構築し、児童が安心して生活できる環境を整える。

①学校内の学びのルールを整える。

- 統一したルールで褒める機会を作る。
 - ・授業のあいさつ
 - ・持ち物「はなちぼう」
 - ・5分休憩を「ととのえタイム」として過ごすことで、時間を意識して行動する。
- 岩倉下敷きでのルールの確認（毎月1のつく日）
- 春に教職員が入れ替わってもスムーズに同じ方向を見て新学期がむかえられるように、ルール（岩倉スタンダード）をファイルしておく。



【岩倉下敷き】



【(は)んかち(な)ふだ(ち)りし(ぼう)し】

②「今月の一点突破」の強化週間で、ほめてルールを定着させる。

→ほめる視点・ほめ方の共通理解

→全校朝会や学年集会で全校が一丸となる
取り組みにする。

→岩倉版「Good behavior カード」(花丸カ
ード)を配布・掲示(視覚化)し、やる気
強化

→強化週間の繰り返して意識の継続

・ろうか歩行

・スマイル挨拶運動

・もくもく掃除ウィーク

→スマイルあいさつ運動であいさつ名人の表彰



【スマイルあいさつ名人の表彰】



【ろうか歩行週間の花丸カード掲示】

4 スーパーバイザーによる指導助言

ASSESSでの検証の仕方

・本校は向社会的スキルが低いという課題が分かった。

→SEL-8Sでスキルアップしないと、協同的な
学びに参加できない。



【山田洋平先生の指導助言で
教員も協同的な学び】



ほめ方

- ・ほめる時は意識を褒めていく
例) ○すれちがう人の気持ちを考えていてすごいね。(そう考えているあなたがすごい)
×右側を歩いているね。(先生に言われていることができているすごい)
- ・ルールは①「ほめる」②「同じ視点・方向」③「視覚化」で定着させる

児童との関わりかた

- ・気持ちは受け入れるが、ルールはまげない。(受け止める)
- ・Iメッセージで伝える
- ・ほめることを継続していく。

横糸をかけるために協同的な学びを取り入れる

- ・友達によさを感じさせる教師の声かけが絶対に必要である。
- ・学習のめあての他に、話し合う時の行動(スキル)のめあてももたせるとよい。
例) うなずきながら話を聞こう。
- ・交流活動の行動のめあての振り返りも行おう。
- ・協同的な学びは役割を与えて全員参加させる。
(司会・発表者・書記・盛り上げ役)



もっと横糸をかけていくにはどうしたらいいか。

- ・縦糸(教師との関係)がしっかりしてきているのでもっと横糸をかけるには
→子どもにまかせる、わざと(意図的に)手をひくことも大切である。
例) あいさつ名人の取り組みで、子どもでも評価者になってもらい、自治的に横糸をかけていく。

5 研究のまとめ

(1) 成果

リレーション・学年集団の横糸についての成果

- 横糸をかける協同的な学びを意識しながら授業をした結果、友達によさやがんばりに気付くことができた。また、苦手なことにも友達からの声援を受け、がんばる姿が見られた。(児童同士が認め合ったり助け合ったりする場)

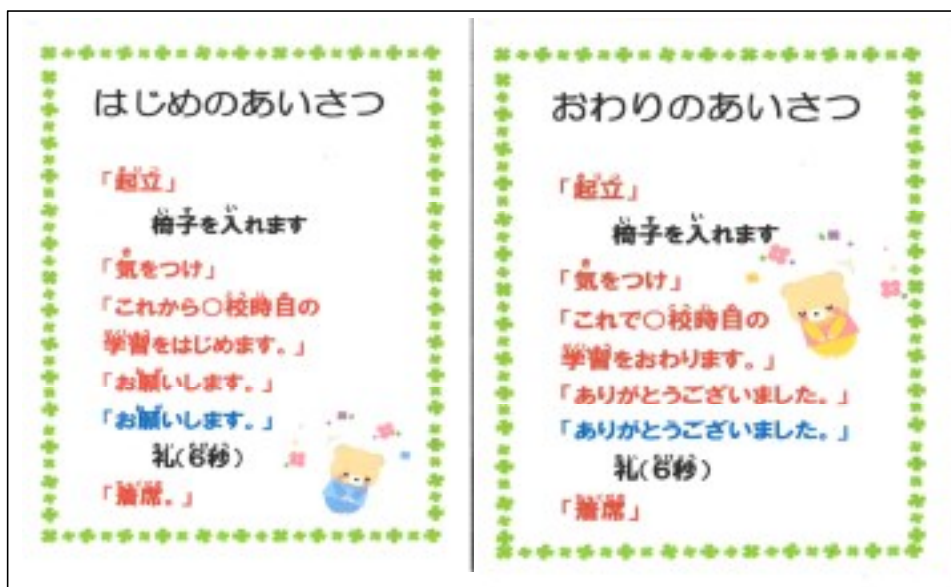


- 児童ができていることを見て認める、ほめるという教師の姿勢から、少しずつ集団から外れる子が減ってきた。
- 思いや考えを交流しあう中で互いの考えのいいところを見つけようとする気持ちが育まれつつある。また、その時友達が言いよどんでいると、「～ということか？」と助け舟を出せる子も出てきた。
- 学級をといての活動を多く行ったことで、新しい仲間との出会いが生まれた。その後の生活や遊びの中で、今まであまり関わりを持っていなかった友達に声をかけるなど、人間関係の広がりが見られた。
- 行事や「一点突破」の取り組みを通して、さまざまな場面でめあてを持つことと振り返りをさせた。児童が自分を振り返り、次の行動を考えるきっかけになったと思う。しっかり振り返ることで成長を感じさせることもできた。
- 12月学校評価「学校に行くのが楽しい」の設問について7月比、学校全体として+2%、5年生+8.4%になった。
- 「みんなで何かをするのは楽しいですか」の設問について、7月比、学校全体として+1%、5年+1.7%、6年+4.4%で効果が見えた。

ルールの再確認・再構築についての成果

- ルールを指導する際に、ほめることを「継続・強化」していくことで、ほめながらルールを定着させることができた。
- 学習のルールを写真などで視覚化することにより、毎時間確認しながら定着させることができた。
- 学習のあいさつを統一したことで、町区別児童会やたてわり班活動など、全学年で集まる会でもあいさつが統一できて、元気な声で安心してあいさつする姿が増えた。

【机上の学習用具の置き方】



- 「一点突破」という形で強化週間を設け、全校集会や学年集会で共有化を図ったことにより、全校が一丸となって1つの目的に向かい、一体感が生まれた。また、始める前に職員の意識の統一（褒めるポイントやほめ方）を図ることで、どの教員も基準がぶれることなく、職員が同じ方向を向いて同じように声かけができた。
- 花丸カードを使って褒めることを「視覚化」したことで、児童のルールをまもる意欲の向上・維持になった。
- 児童を表彰する機会を増やすことで、多くの児童についても、目に見える形で認める機会とした。

(2) 課題

- 「一点突破」（強化週間）には、児童も教員も意識して取り組むが、その週間だけの取り組みになってしまいがちだった。児童の意識が継続できる取り組みにしていくために、児童主体の自治的な活動につなげる必要がある。
- 協同的な学びを強化週間を設けて各担任それぞれが実施してきたが、それぞれの取り組みの共有化は図れなかった。具体的な実践を見合ったり、アイデアを交流したりする機会を持つことで、より実践を深められるようにしたい。

6 おわりに

今年度、山田洋平先生をお迎えし、児童の現状の検証（ASSESS）の方法を教えていただくことで本校の課題を共通理解しながら研究を進めていくことができた。1つ1つのきまりについて、そしてほめ方、声のかけ方も共通理解しながら取り組むことで、「学習のあいさつ」「ととのえタイム」「ろうか歩行の仕方」など全校で児童も教員も同じ視点を持つこと、そして同じ方向を向いて取り組んでいくことの大切さを実感できる研究となった。



また、学年で子ども同士の横糸をつなげる取り組みをする中で児童の横糸だけでなく職員の横糸もつながり、山田洋平先生にいただいた「徹底・継続」のスローガンのもと、まさに全校が一丸となって進める研究になった。

大切なのはこの取り組みが本年度だけのものにならないようにしていくことである。今後は児童同士で声を掛けあい、自治的にリレーションが深まっていくように、教師主導から児童が主体となってルールを徹底・定着できるように、来年度につなげていきたい。